

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立若松台小学校
校長 吉川 真一

中学校区におけるめざす子ども像 自己を高めようと努力し、自ら学び続ける子

令和6年度 重点目標 若松台学校群として小小と小中の教育活動の連携をすすめ、学校・家庭・地域の協働のもと持続可能な「新たな学校づくり」をめざす。

1. 確かな学びの育成 「主体的・対話的で深い学び」を追求し読解力の育成につとめ、「学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子ども」の育成をめざす。ICTを活用して総合的な学力や情報活用能力を向上させる。
2. 豊かな心の人づくり 校内だけでなく、中学校区の児童のつながりを強め、多様な集団づくりの取り組みを行う。さらに国際理解教育を含む豊かな心を育てる教育を展開し人権尊重の精神を涵養する。食育と眠育を中心に健康教育を充実させ、日々の運動を重視して体力の向上を図る。
3. ゆめをはぐくむ教育の推進（若松台学校群としての新たな学校） 義務教育9年間を見通した学びと育ちを意識した小小、小中の連携を行い、児童に多様な出会いと経験を増やし、つながる心と自他を尊重する心を育む。学校群の教職員が連携し、若松台学校群の児童生徒を育成する。
4. 学校・家庭・地域との協働をめざす 系統的に地域学習を行い探求的な学びを進め、児童に自分たちの町を大切にすることと行動力を育成し、学校、家庭、地域の連携をさらに深め強める。

<p>「確かな学び」の現状 各種調査の結果より、国語科においては、読書が好きという児童の割合が市平均と比べても増えているが、学習場面での「読むこと」に関する関心が低く、要約する、資料を結び付けて考えるなどに課題がある。また算数においては、問題の解き方や考え方をわかるようにノートに書いている児童が多いが、資料の読み取りに課題を感じている児童が一定数いる。学力の二極化も進んでおり、学習に対する意欲も差がみられる。児童用端末を使つての学習活動は定着してきている。朝学習などで基礎学力定着に向け取組を充実させるとともに、国語科においては、「読解力の育成」に取り組み、資料を用いた説明文の読み取りやノート指導に力を入れる。算数科・社会科でデータを活用した学習を進めていく。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状 アンケート調査より、全体的には自己肯定感の高い傾向にあるが、さらに醸成していくために、学習におけるペア交流やグループ交流を取り入れる設定や異学年・同学年での交流など他者を意識しつながる仲間づくりを意識した取組を進めていく。また、総合的な学習において自分たちの町を意識した取組を系統的に進めていることから地域との関わりに関心をもつ児童の割合が増えている。体を動かすことが好きな児童も多く、仲良しタイムや休み時間には運動場で元気に遊ぶ姿が多くみられる。道徳教育、国際理解教育を推進していくことを軸として、人とつながりを大切に、多様性を認めあい、人権が尊重されていることを実感できるよう、学校全体で人権教育に取り組む。</p>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学びの基礎 力の向上	基礎基本の学力を育成し、学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子どもの育成	●★児童の読解力の育成に努め、「主体的で対話的で深い学び」を追求し、授業改善に取り組む。朝学習や自主学習ノートを活用し家庭での学習習慣の定着を図る、さらに読書活動の充実に取り組む。	教科研修と年3回の研究授業。2年生以上自主学習ノートの活用読書活動(朝読と図書貸出冊数、アンケート)の変化	ノートと貸出冊数・アンケート	年度末	○ 読解力その他の研修を行い、自主学習も6年生では「けてぶれ学習」として実施して進めています。		
	総合的な学力向上	個別最適な学び、協働的な学びを追求し、総合的な学力を身に付けた子どもの育成	●★さまざまな授業の中で学びのコンパスなど探究的な学びを推進し、総合的な学力の向上を進める。学校群内の学校との交流や地域学習等の総合的な学習に取り組む。	公開授業・学習発表の実施 アンケート肯定率や活用力の比較	学力調査・学校アンケート	年度末	○ 学校群としての公開授業3回実施して、探究的な学びの推進をしている。学校群内の児童生徒の交流も進めている。		
		ICTを活用した学習を進め、情報活用能力を向上させる	●★外国語、算数、理科、音楽等での教科担任制を行い、他校と連携しつつ9年間を見通した系統的な指導を行う。	自校教員、若松台中、上神谷小、茶山台小教員による授業の実施	実施状況・アンケート	年度末	○ 一部形を変更した教科もあるが、兼務教員による各教科の授業は順調に行っている。		
豊かな心 健やかな体	生活習慣の確立と 自尊感情の育成	さまざまな体験を通して、人とのつながりや思いを知り、自他ともに大切にすることを育てる	特別の教科道徳の授業を要とし、他の教科等との関連を図りながら道徳教育・人権教育の充実を図る。	道徳の教科書や副読本の効果的な活用と公開授業の実施	アンケート	年度末	△ 本市初研道徳部会の公開研究授業も実施し、道徳教育の推進を図っている。		
		健康・安全に関する認識を高める。体力の向上を図る	●いじめ事案の早期発見・早期解決に努め、組織的に対応し、人権教育、特別支援教育、集団づくり、仲良しタイム等の取組を通して、自他を大切にすることを育てる	研究授業の実施と人権にかかわるアンケート項目の肯定率が90%以上	アンケート 児童観察	年度末	△ 学期ごとにアンケートを実施し早期対応、早期解決に努めている。6年生による仲良し活動も進めている。		
		健康・安全に関する認識を高める。体力の向上を図る	●食育・防災を含む安全教育を通して、健康で安全な生活ができる力を育てる。	健康や安全にかかわる取組状況。その関係のアンケートの肯定率	アンケート	年度末	○ 「ペロリンレストラン」など食育の推進を計画的に進めている。		
		健康・安全に関する認識を高める。体力の向上を図る	行事や屋外での遊び等を通して、体を動かすことの楽しさを体感させ、体育授業に積極的に取り組む児童を育む	「体育授業に積極的に取り組む」アンケート肯定率80%以上	アンケート 調査結果	年度末	○ かけ足などのイベントを行い、体力養成に努めている。		
独自の課題	豊かさに 若松台学校群	ちがいを認め合い、互いに助け合う態度を育てる	●外国にルーツにある児童を含めすべての児童が様々な国の文化や人々を理解し尊重する心情を育てる国際理解教育を推進する。	国際理解教育の取組の内容と回数。日本語指導の状況。	実践報告 公開授業	年度末	△ 本校を会場に大阪府在日外国人教育研究会を行った。日本語指導も兼務教員によって進めている。		
		若松台学校群として取り組み、児童と教職員がともに輝く学校に	●★学校群での取組を進め、カリキュラムマネジメントを充実させ、児童の交流を意識した教育活動や働き方改革に伴う授業時数の平準化、行事の選択と集中を行い、効果的な教育活動を実践する。	実施状況とアンケート	取組の検証とアンケート	年度末	○ 5年臨海の合同キャンプファイヤー、連運ん合同練習会を含め多くの取組を行い、学校群のモデル校2年目の取組を順調に進めている。		

校長より(年度末) 取組を	学校関係者評価者から(年度末)
------------------	-----------------